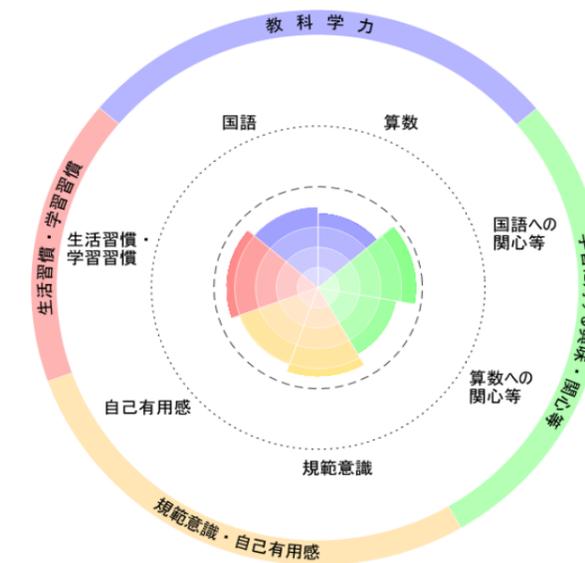


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	○意識調査からみると国語の学習を好きだと感じている児童は比較的多い。 ○「ことわざの使い方」や「インタビューで工夫されていたこと」などを選択式で答える問題の正答率が国と同程度であった。 ●文脈に合う正しい漢字を表記する問題の正答率が低い。 ●問題の意図が十分に読み取れなかったり複数の回答条件に合うように答えられなかったりして、記述式の問題の正答率が低い。また、無回答率も高い。	・読書指導はもとより、音読や暗唱、意味調べ、要点・要旨まとめ、段落相互の関係を調べるなど、各単元で継続して行う学習活動を大切に、基礎的読解力を高めていく。 ・事実と意見を区別して書く、表現の効果を考えて書く、主張がはっきり伝わる論の組み立てを考えると書くなど、各作文単元での指導事項を明確にし、効果的な作文指導を進めていく。
算数	○「台形の図形を選ぶ」「棒グラフから全体の傾向をつかむ」などの基礎的な知識や技能についての正答率が高い。 ●「棒グラフから何倍かを読み取る」、「加法と乗法の混じった計算を正しく計算する」問題の正答率が低い。 ●数や演算の表す内容に着目して書いたり、示された例の形式や内容を理解して別の場合を同様に説明したりするような記述式の問題に対する無回答率が高い。	・解答に至る過程を、式や図、言葉などを交えて表現したり、それを伝え合ったりすることで理解を深めていく学習場面の充実を図る。 ・単元や学習場面に応じて少人数指導を積極的に取り入れ、早期のつまづきに対応して「わかる・できる」ことから学習意欲を高めたり、習熟度に合った指導により学力の底上げを図ったりする。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



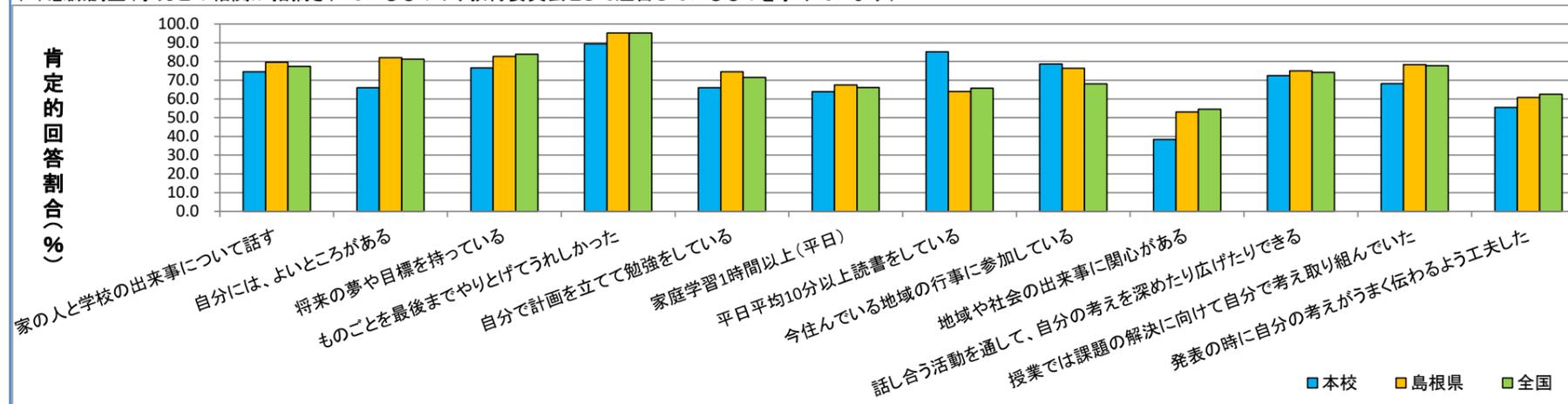
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
	○図書館に通う回数や読書量は多く、読書に親しむ傾向は継続している。 ○「毎日同じ時間の時間に起きたり寝たりする(規則正しい生活)」が昨年度よりもよい傾向を示すようになっている。 ●「自分で計画を立てて取り組む」「課題解決に自分で考えて取り組む」など、主体的な姿勢に肯定的な回答が低い。 ●自己肯定感や地域・社会への関心など、学校の教育活動だけでなく地域や家庭と連携していきべき課題もある。	・読書に親しんでいる現状を大切に、読み取ったことや感じ取ったことを、話したり書いたりして表現していく活動を図書館活用教育と連携して行う。 ・授業とつながる宿題の課題設定をしたり、自分で計画的に進めていく自学方法を提示したりして、基本的な生活習慣の中に充実した家庭学習を組み込めるよう、家庭と連携して取り組む。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学習展開の中で、「めあて」を確認する場面、「まとめ・振り返り」をする場面を設定して見通しのある授業づくりをしていくことを継続しながら、自分の考えを図や言葉、動作などで表現したり、多様な考えと触れ合い自分の考えを深めたりする学習場面を増やしていく。 ・ドリル学習やミニプリント、書き取り・計算会などで基礎的な知識や技能の定着を図ることと並行し、発展的な学習の機会も積極的に設け、自由な意見交換や豊かな発想に触れる場面を増やし、学習意欲を高めたり、多角的な見方や考え方を身に付けたりできるようにする。 ・学力向上指導講師を活用したより効果的な少人数指導を推進する。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本校	松江市	島根県	全国
国語	54	63	62	63.8
算数	56	66	65	66.6

受検者数 45人
 ※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。